

第 8 回
伊万里地区新高校
設置準備委員会
(資料)

平成 29 年 1 月 26 日
佐賀県教育委員会

目次

	頁
資料 1	新たな生徒減少期に対応した佐賀県立高等学校再編整備実施計画 (第1次)新高校設置準備委員会報告まとめ・・・・・・・・・・・・ 1
資料 2	新高校の校地について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
資料 3	新高校の校名検討について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
資料 4	平成29年度以降のスケジュールについて・・・・・・・・・・・・ 19
資料 5	新高校設置準備委員会設置要領・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
資料 6	伊万里地区新高校設置に向けた検討体制・・・・・・・・・・・・ 22
資料 7	伊万里地区新高校設置準備委員会委員構成・・・・・・・・・・・・ 23

新たな生徒減少期に対応した佐賀県立高等学校再編整備実施計画（第1次）
新高校設置準備委員会報告まとめ（10月、11月）

1 開催日時・場所等

回	地区及び再編対象校	開催日時・場所	委員
第7回	伊万里地区	平成28年 11月1日（火）	学校関係委員 4人
	・ 伊万里農林高校	15時～16時50分	地域関係委員 7人
	・ 伊万里商業高校	伊万里農林高校 視聴覚室	県教育委員会関係委員 7人
第8回	唐津地区	平成28年 10月27日（木）	学校関係委員 3人
	・ 巖木高校	10時～11時30分 巖木高校 同窓会館	地域関係委員 5人 県教育委員会関係委員 7人
第9回	杵島地区	平成28年 10月26日（水）	学校関係委員 4人
	・ 白石高校	10時～11時30分	地域関係委員 11人
	・ 杵島商業高校	白石高校 同窓会館	県教育委員会関係委員 8人
	鹿島地区	平成28年 11月1日（火）	学校関係委員 4人
	・ 鹿島高校	10時30分～12時	地域関係委員 10人
	・ 鹿島実業高校	鹿島高校 同窓会館	県教育委員会関係委員 8人
第7回	嬉野地区	平成28年 11月2日（水）	学校関係委員 4人
	・ 塩田工業高校	16時～17時	地域関係委員 8人
	・ 嬉野高校	塩田工業高校 同窓会館	県教育委員会関係委員 8人

2 主な意見等

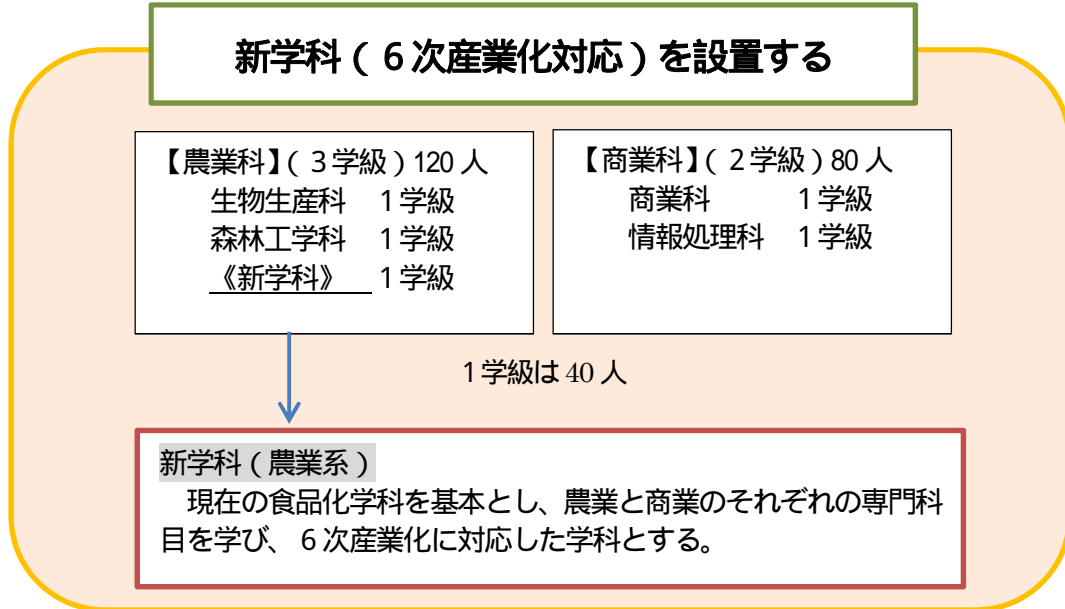
回	地区	主な意見等
第7回	伊万里地区	<p>新高校の学科構成について （特に意見なし）</p> <p>学科構成は以下のとおりで委員了承。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【農業科】生物生産科1学級、森林工学科1学級、新学科（6次産業化対応）1学級 ・【商業科】商業科1学級、情報処理科1学級 <p>新高校の校地について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 開校時は校舎制でいくしかないという考えである。 ・ 専門性確保という観点からは、校舎制がベストだと考える。新学科の1年生を商業校舎、2年生から農業校舎に配置することについては、子供たちの人間関係上、そこがうまくつながればと思う。 ・ 新学科1年生を商業校舎とすれば、ビジネスマナー、礼儀を指導できる。

回	地区	主な意見等
第8回	唐津地区	<p>「新厳木高校改編計画（原案）」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域連携」について、中学校との連携は考えていないのか。 今年度から、中高合同のボランティア活動や部活動を始めているため、「小高連携」としている箇所を「小中高連携」と改めたい。 ・ホームステイ先については、市民センターが窓口になって、厳木町内、又は厳木高校の近隣で、来年頃から整備・調整されていくということか。 今後、市民センターと協議していきたいと考えているが、事前にホームステイ先を用意するのではなく、要望が出てきた時に対応するという方法になるのではないかと思う。 <p>「新厳木高校改編計画（原案）」について委員了承。</p>
	杵島地区	<p>杵島地区新高校の分校制について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新高校の校舎の呼称については、新しい高校としてスタートするという思いを込めたものを考えるのが良い。 事務局案のとおり「杵島校舎（仮称）」を規則上の分校に位置付けることで委員了承。 <p>杵島地区新高校再編整備実施計画（原案）について （特に意見なし）</p> <p>「杵島地区新高校再編整備実施計画（原案）」について委員了承。</p>
第9回	鹿島地区	<p>新高校の分校制について （特に意見なし）</p> <p>事務局案のとおり「大手門学舎」を規則上の分校に位置付けることで委員了承。</p> <p>「鹿島地区新高校再編整備実施計画（原案）」について （特に意見なし）</p> <p>「鹿島地区新高校再編整備実施計画（原案）」について委員了承。 「赤門学舎」「大手門学舎」を正式な校地の名称とすることで委員了承。</p>
	嬉野地区	<p>「嬉野地区新高校再編整備実施計画（原案）」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動での生徒移動については御支援願いたい。 <p>「嬉野地区新高校再編整備実施計画（原案）」について委員了承。 「塩田校舎」「嬉野校舎」を正式な校地の名称とすることで委員了承。</p>

参考資料

伊万里地区新高校の学科構成

(1) 学科構成（前回承認済）

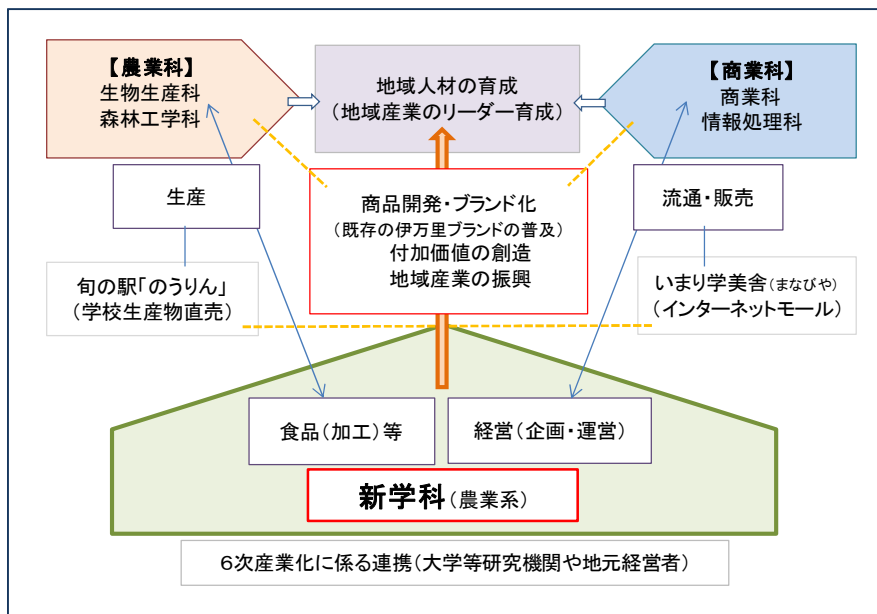


(2) 新学科のイメージ

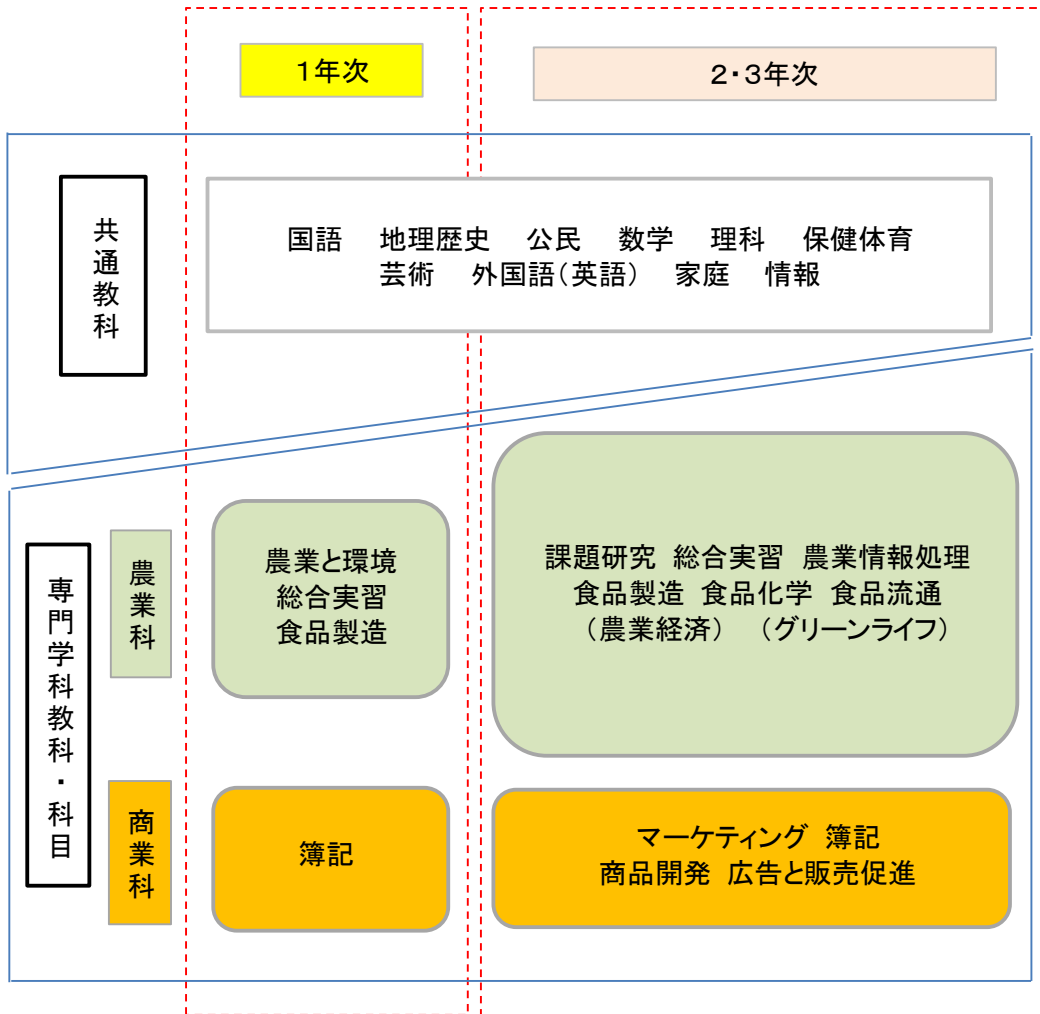
新学科のコンセプト

時代の潮流である6次産業化に対応し、農産物の生産、加工、流通、販売を一貫してマネジメントするための基礎を学び、将来、伊万里市、佐賀県の産業界のリーダーとなるような人材を育成する学科。

新学科のイメージ図



カリキュラム例のイメージ
 (現在の伊万里農林高校食品化学科をベースとした場合)



※情報は農業情報処理で代替
 ※農業科の科目は25単位以上が必要

伊万里地区新高校の校地（第7回設置準備委員会 事務局案）

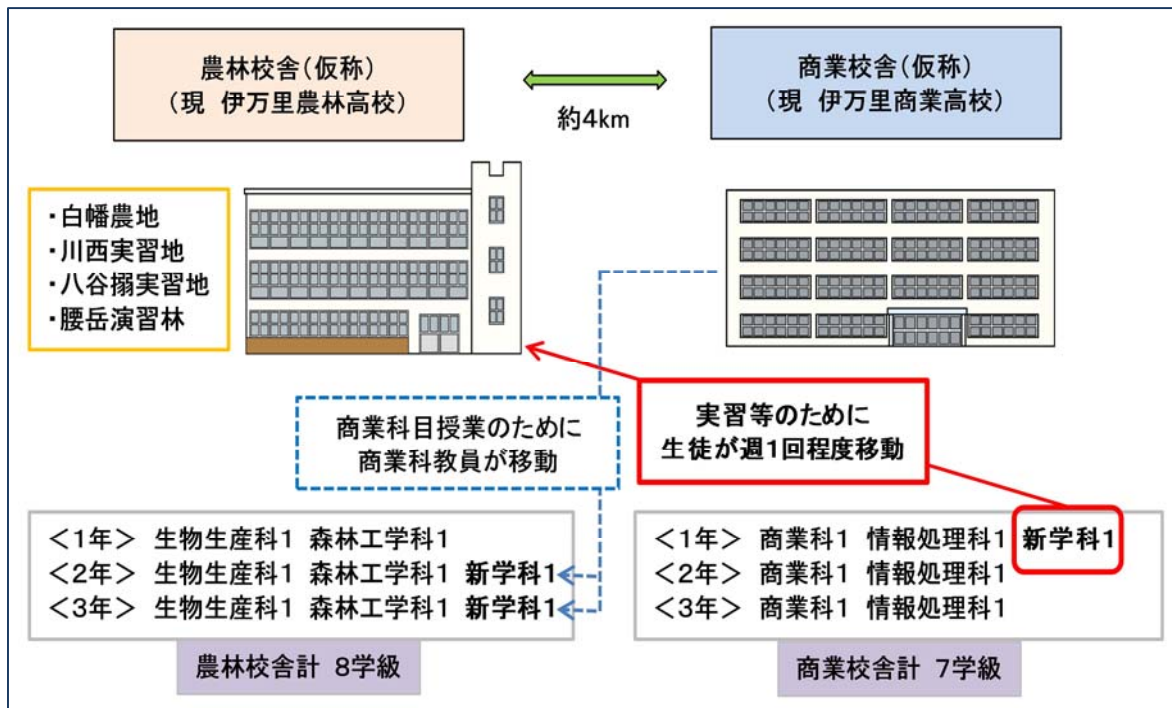
現在の伊万里農林高校の校地に農業科、伊万里商業高校の校地に商業科を配置する校舎制とし、それぞれを農林校舎（仮称）、商業校舎（仮称）とする。
 その際、新学科の生徒は1年次のみ商業校舎に配置する。

【理由】

農業科、商業科ともこれまでと同じ環境で専門性を維持した教育活動ができる。特に農業科では移動負担が生じず、農業実習での授業時間の確保ができる。

新学科（6次産業化対応）の教育効果をより高めるためには、新学科の生徒と商業科の生徒との交流や意見交換ができるような教育環境があることが望ましい。そのため、農業実習を伴う専門科目の単位数が少ない1年生を商業校舎に配置する。農林校舎での農業実習が週1回程度生じるが、生徒の移動負担を最小限にしなが、新学科としての教育の基礎を築くことができる。また、学校としての一体感の醸成も図ることができる。

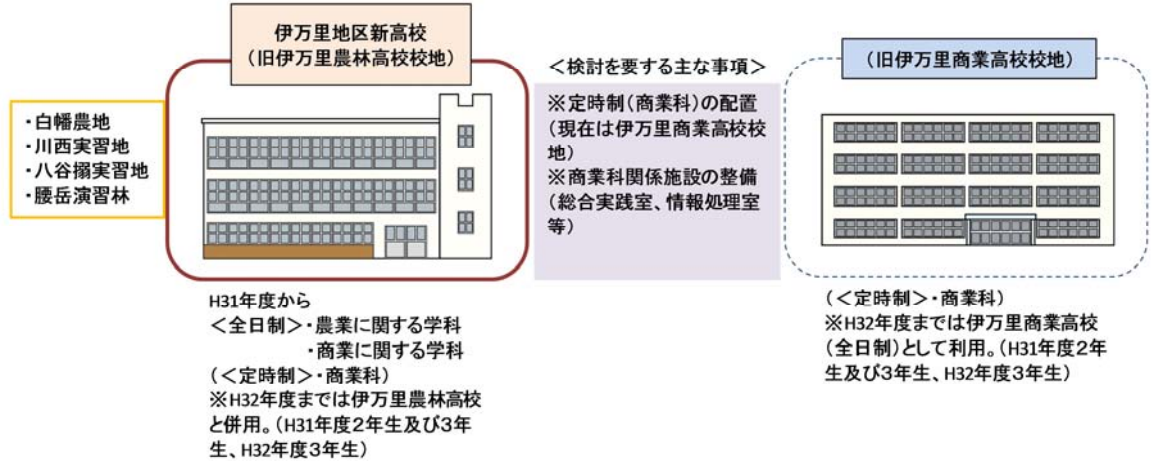
【イメージ図】



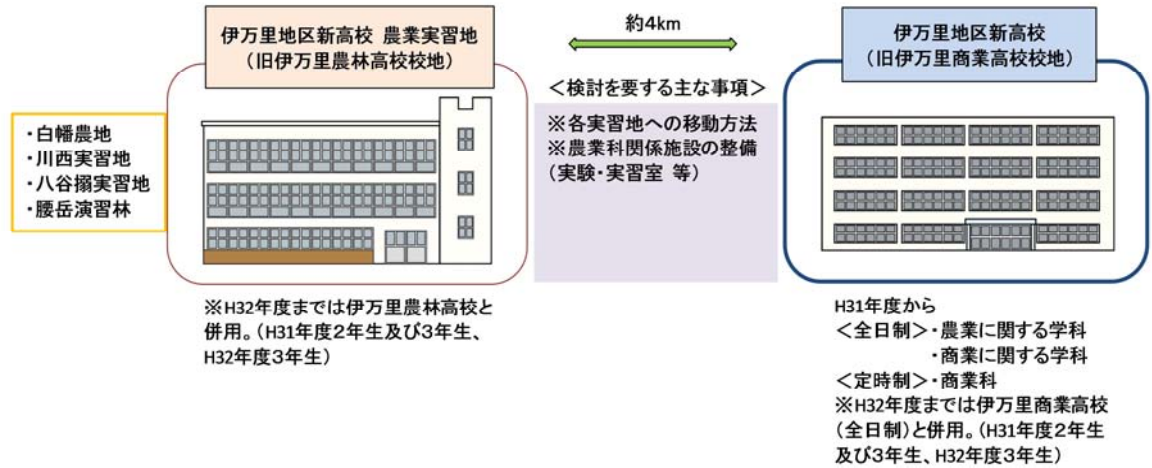
参考資料

1. 伊万里地区新高校の校地に係るパターンイメージ

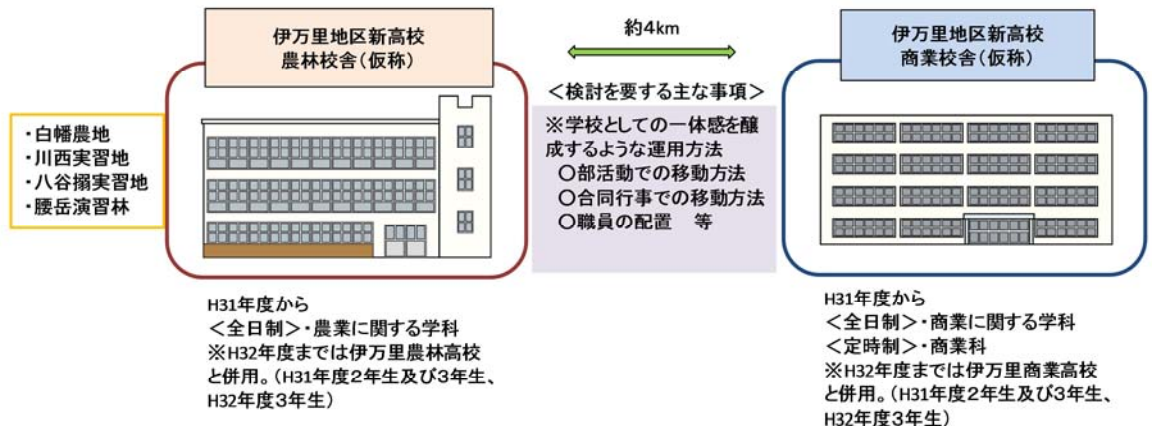
(1) 現在の伊万里農林高校を校地とした場合



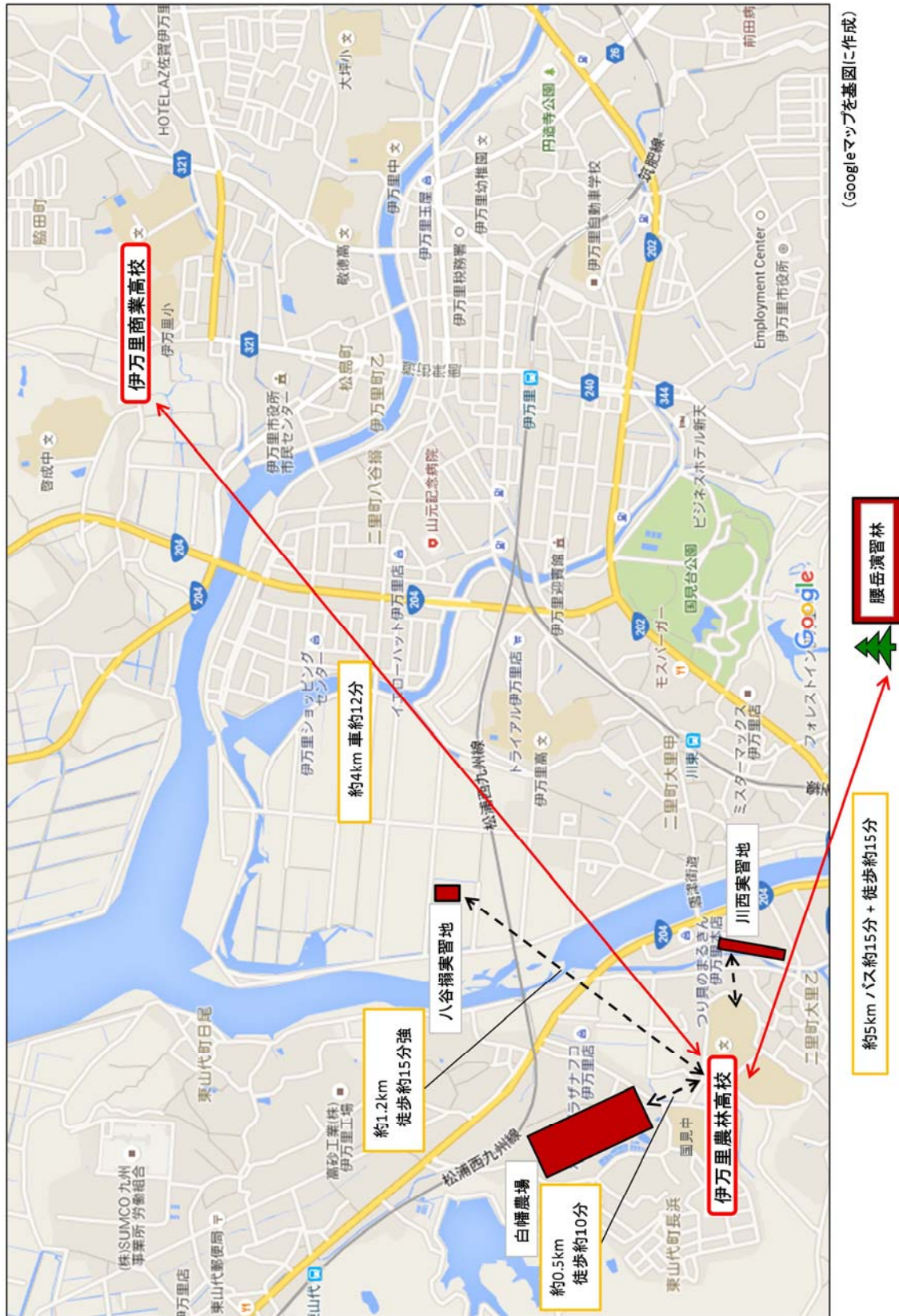
(2) 現在の伊万里商業高校を校地とした場合



(3) 校舎制とした場合



2 現在の両高校の位置と伊万里農林高校の実習地



(Googleマップを基図に作成)

3 校舎制

(1) 全国の校舎制高校一覧（平成28年度）

No	学校名	都道府県	校舎・定員（H28年度）	複数校舎 間距離 (km)	開校の経緯	開校年 (再編年)
1	名寄産業	北海道	光陵キャンパス・名農キャンパス	3.4	高校再編	平成21年
2	弘前実業	青森県	本校（農業40、商業120、家庭80、体育40） 藤崎校舎（りんご40）※H29募集停止予定	11.1	高校再編	平成20年
3	青森東		本校（普通280） 平内校舎（普通40）	21.0	高校再編	平成22年
4	青森北		本校（普通200、体育40） 今別校舎（普通40）	49.2	高校再編	平成19年
5	大湊		本校（総合200） 川内校舎（普通40）	19.9	高校再編	平成20年
6	木造		本校（総合320） 深浦校舎（総合40）	53.8	高校再編	平成19年
7	塩釜		宮城県	西キャンパス（普通3年、商業全学年） 東キャンパス（普通1・2年）	0.5	高校再編
8	新庄神室産業	山形県	本校（農業80、工業80） 真室川校（普通40）H27より	18.4	高校再編	平成27年
9	新庄南		本校（普通120、商業40） 金山校（普通40）	15.1	高校再編	平成26年
10	新庄北		本校（普通200） 最上校（普通40）	28.9	高校再編	平成26年
11	鶴岡南		本校（普通160、理数40） 山添校（普通40）	7.0	高校再編	平成26年
12	幕張総合	千葉県	普通科校舎（普通720） 看護科校舎（看護40）	1.3	高校再編	平成8年
13	佐久平総合技術	長野県	浅間キャンパス（農業120、工業80） 臼田キャンパス（総合80）	9.6	高校再編	平成27年
14	須坂創成		須園キャンパス（農業120、工業40） 須商キャンパス（商業120）	0.8	高校再編	平成27年
15	飛騨高山	岐阜県	岡本キャンパス（普通80、商業80、家庭40） 山田キャンパス（農業120）	2.1	高校再編	平成17年
16	南伊勢	三重県	南勢校舎（普通40） 度会校舎（普通80）	16.1	高校再編	平成20年
17	和歌山北	和歌山県	北校舎（普通320） 西校舎（普通80、体育80）	7.2	高校再編	平成24年
18	海南		海南校舎（普通160、理数40） 大成校舎（普通80） ※美里分校（普通40）	8.1	高校再編	平成20年
19	串本古座		串本校舎（普通120） 古座校舎（普通40）	9.2	高校再編	平成20年
20	京都八幡	京都府	北キャンパス（普通200） 南キャンパス（福祉30、その他30）	2.4	高校再編	平成19年
21	綾部		四尾山キャンパス（普通240） 由良川キャンパス（農業60）	2.5		昭和23年
22	井原	岡山県	北校地（普通120） 南校地（農業40、家庭40）	0.7	高校再編	平成18年
23	新見		北校地（農業30、工業35、商業35） 南校地（普通105）	0.9	高校再編	平成19年
24	勝山		勝山高校（普通120、商業40） 蒜山校地（普通40）	38.3	高校再編	平成25年
25	真庭		落合校地（普通80、看護40） 久世校地（農業70）	6.4	高校再編	平成23年
26	大津緑洋	山口県	大津校舎（普通90） 日置校舎（農業50） 水産校舎（水産50）	10.1	高校再編	平成23年
27	阿蘇中央	熊本県	阿蘇校舎（普通120、商業40） 阿蘇清峰校舎（農業80、福祉40）	3.1	高校再編	平成22年
28	天草拓心		本渡校舎（普通40、商業40、農業120） マリン校舎（普通40、水産40）	23.0	高校再編	平成27年

【参考】校舎間の距離： 鹿島-鹿島実0.13km 伊商-伊農4.0km 白石-杵島商4.6km 嬉野-塩田工8.9km

平成28年9月県立高校再編整備推進室調査

(2) 他県事例（視察校）

熊本県立阿蘇中央高等学校

沿革

H22.4 阿蘇高等学校（普通科、商業科）と阿蘇清峰高等学校（生物科学科、林業・農業土木科、社会福祉科）が統合。

学科と募集定員

【計 280 人 7 学級 / 学年】 校舎間の距離約 3.1 km

校舎	学科（数値は H28 募集定員（人））
阿蘇校舎（旧阿蘇高校）	普通科 120 総合ビジネス科 40
阿蘇清峰校舎（旧阿蘇清峰高校）	農業食品科 40 グリーン環境科 40 社会福祉科 40

農業食品科...野菜、草花、畜産

校舎制の主な状況（H27.6.15 に学校訪問）

- ・ 生徒の移動を伴うのは、授業（総合選択制）合同行事、部活動等である。
- ・ 入学式、卒業式の際は、保護者用のバスも準備する。
- ・ 部活動のための移動は、生徒各自で行う。ほとんどの生徒が 30 分程度をかけて徒歩で移動している。移動ルートのほぼすべてに歩道が設置されている。特に交通指導等はしていない。
- ・ 合同で行っている行事は、各式典（入学式・卒業式・始業式・終業式・対面式）宿泊研修（1 年次）体育祭・文化祭、農業体験（田植え・稲刈り・収穫感謝祭）修学旅行、芸術鑑賞会、ロードレース大会、クラスマッチ（年 1 回）。
- ・ 式典関係はすべて阿蘇校舎で行う（阿蘇清峰校舎の生徒が移動）。

岡山県立真庭高等学校

沿革

H23.4 落合高等学校（普通科、看護科、専攻科）と久世高等学校（生産生物科、食品科学科）が統合。

学科と募集定員

【計 190 人 5 学級 / 学年】 校地間の距離約 6.4 km

校地（校舎）	学科（数値は H28 募集定員（人））
落合校地（旧落合高校）	普通科 80 看護科 40
久世校地（旧久世高校）	生物生産科 35 食品科学科 35

生物生産科...作物、野菜、草花、畜産

校舎制の主な状況（H27.11.19 に学校訪問）

- ・ 合同の行事は、入学式（落合校地）卒業式（落合校地）芸術鑑賞会（3 年に 1 度）学年交流会（各学年で行う）。＜各行事とも大型バスで移動＞
- ・ 授業での生徒の移動はなし。
- ・ 部活動に伴う生徒の移動は、中型バス（スクールバス）で週に 2 日間（月金）のみ送迎。
- ・ 両校舎を兼務しているのは理科、芸術の教諭。

沿革

H27.4 北佐久農業高等学校（栽培システム科、生物サイエンス科、食品サービス科）、臼田高等学校（普通科、グリーンライフ科、デザイン科）、岩村田高等学校工業科（機械科、電子機械科、電気科）が統合。

学科と募集定員

【計 280 人 7 学級 / 学年】 キャンパス間の距離約 9.6 km

キャンパス（校舎）	学科		学級数	H28 募集定員（人）
浅間キャンパス（旧北佐久農業高校）	農業科	食品マネジメント科	3 学級	120 人 （くくり募集）
		生物サービス科		
		食農クリエイト科		
	工業科	機械システム科	1 学級	40 人
		電気情報科	1 学級	40 人
臼田キャンパス（旧臼田高校）	創造実践科（総合学科）		2 学級	80 人

農業科...作物、野菜、草花、畜産

校舎制の主な状況（H27.12.2 に学校訪問）

- 一つの高校としての一体感を醸成していくことには配慮している。そのために、そのキャンパス、その学科でしかできないことと共同でできることの線引きをどこで行っていけばいいのかを現在模索中である。例えばキャンパス間ウォーク（両キャンパスを折り返して歩く）やクラスマッチ（各学年でどちらかのキャンパスに集まって行う）という行事は合同でやるが、文化祭はキャンパス別に行うということである。文化祭の別開催は「地域に開かれた学校」ということを考えた場合、1つのキャンパスのみの開催はできないだろうという発想である。
- 1つのキャンパスで一斉に開催する行事については現地集合である。
- 入学式、卒業式は浅間キャンパスで行っている（卒業式は予定）。
- 生徒の授業でのキャンパス間移動はない。
- 両キャンパスの兼務者は理科助手、音楽、美術、書道、農業の5人である。校務分掌がある方を本所属のキャンパスとしている。
- 授業であれば産振用のマイクロバスを利用できる。通学用のバスはない。
- 部活動について、巡回バス用の予算はない。平日は週2回（火、金）にPTAが持つマイクロバスを運行している。

沿革

H24.4 阿波農業高校（農業科学科、園芸科学科）と鴨島商業高校（商業科、経営情報科）が統合。

学科と募集定員

【計 130 人 5 学級 / 学年】

大学科	小学科（数値はH28 募集定員（人））	
農業科	農業科学科 25	生物活用科 20
商業科	会計ビジネス科 25	情報ビジネス科 30 食ビジネス科 30

農業科...作物、野菜、果樹、草花

校地の状況

どなり
【土成農場までの距離 約 5.6 km】

- ・本校地（旧鴨島商業高校）
- ・土成農場（旧阿波農業高校）



学校の主な状況（H28.10.11 に学校訪問）

学科併置（農業科、商業科）について

- ・ 農業科と商業科の連携で農業が苦手とする商品管理やマーケティング面を補うことができ、本校のオンリーワンブランドが開発できている。
- ・ 商業科の指導ではビジネスでの礼儀を重んじる面があるが、農業科でもそれを取り入れている。両科それぞれが大切にしているものをいかに融合していくかということである。

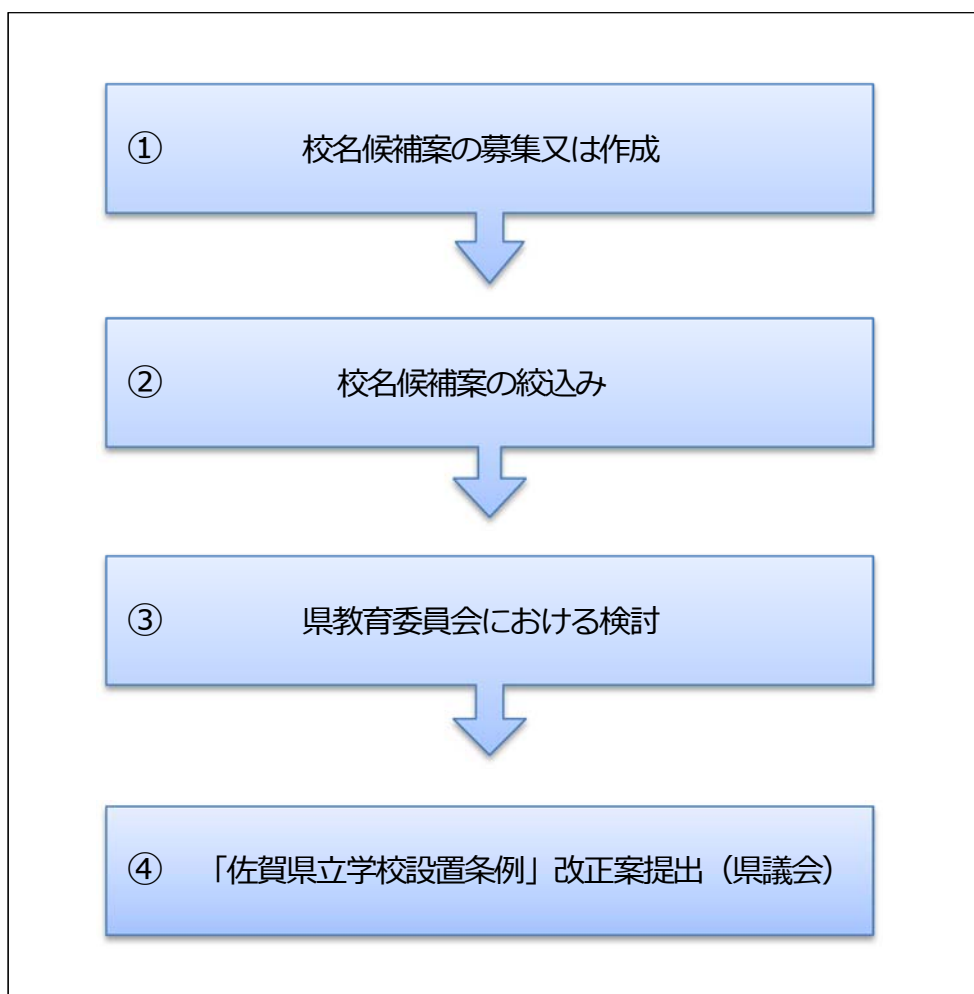
6次産業化への対応<食ビジネス科>について

- ・ 6次産業化への対応（食ビジネス科）は、統合するメリットを考えた結果である。
- ・ 食ビジネス科は実習棟を持っており、スクールカフェ吉野川とアグリ吉野川（農産物販売）を年間 15 回行っている。地域食材調達、調理、店舗経営を身に付けることを目的としている。
- ・ 進路について、就職では他の商業科の学科（会計、情報）と比較し、農業関連分野（食関係）が多く、進学では四年制大学で管理栄養士を目指す生徒もいる。

土成農場について

- ・ バス移動は約 15 分（約 5.6km）、1 日約 2 往復、
- ・ 移動は 1 限目の前（朝 HR 後）、2・3 限目の間（休み時間 20 分）、5 限目の前（昼休み）
- ・ 教職員の土成農場本務者は 5 人で、朝礼は本校舎で行い、その後土成農場へ移動している。
- ・ 農場管理については人手が足りず、農場本務では担任ができない状況である。
- ・ 耐震工事が完了した実習関係の施設のみ利用（座学も行えるため、天候が悪い時もバス移動は行う）。それ以外（教室棟、グラウンド、体育館など）は使用できない。
- ・ 移動があるため、実習の時間が確保できていない。毎日が短縮授業と同じである。
- ・ 再編にあたり、農場に通うことになったので、動物の飼育や管理ができないため、畜産科は廃止した。

1 校名制定までの流れ（概略）



2 県立学校校名変更事例

	開校年度	学校名	校名変更の理由
1	H8	神埼清明高校	学科改編（農業科 総合学科）
2	H14	多久高校	学科改編（工業科 総合学科）
3	H15	致遠館中学校	中高一貫の導入（県立中学校の開校）
4	H17	唐津青翔高校	高校再編（唐津北高校・東松浦高校の統合）
5	H18	唐津東中学校	中高一貫の導入（県立中学校の開校）
6	H19	香楠中学校	中高一貫の導入（県立中学校の開校）
7	H19	武雄高校・武雄青陵中学校	高校再編、中高一貫の導入（県立中学校の開校）
8	H19	うれしの特別支援学校	特別支援学校の新設
参考	H30 予定	杵島地区新高校	高校再編（白石高校・杵島商業高校の統合）
	H30 予定	鹿島地区新高校	高校再編（鹿島高校・鹿島実業高校の統合）
	H30 予定	嬉野地区新高校	高校再編（塩田工業高校・嬉野高校の統合）

（１）神埼清明高校 <平成 8 年：(旧)神埼農業高校>

校名候補案	<u>当該校職員より募集</u> （H7.5.29～6.10 26 案の応募）
校名候補の絞り込み	<u>プロジェクト委員会</u> （校内） 10 案に絞り込み(H7.6.20) 校内全職員での検討 5～6 案に絞り込み(H7.6.22) 当該校より県教委へ校名案の要望書提出(H7.9.5)
県教委における検討	教育庁内新校名案検討(H7.10.18) 校名候補についての協議（2～3 案に絞り込み） 知事、副知事、総務部長に説明 11 月定例教育委員会(H7.11.20)
条例改正案提出	11 月県議会

（２）唐津青翔高校 <平成 17 年：(旧)唐津北高校、東松浦高校>

校名候補案	<u>公募</u> （H16.4.5～4.23 509 通の応募）
校名候補の絞り込み	<u>校名候補検討会</u> 16 案に絞り込み（H16.5.6） （構成：関係市町首長・教育長、地元中学校校長・PTA 会長、再編対象校校長及び職員代表、教育企画室長） 検討委員に地元関係者 4 名を加え、アンケート調査を実施 有識者への意見聴取 6 案に絞り込み
県教委における検討	県立高校再編整備推進本部会議（H16.5.14） 校名候補についての協議（3 案に絞り込み） H16.5.26 5 月定例教育委員会(H16.5.27)
条例改正案提出	6 月県議会

(3) 唐津東中学校 <平成 18 年：県立中学校開校>

校名候補案	唐津東高校職員により作成 (H17.5.11 56 案の作成)
校名候補の絞り込み	第 1 回校名候補検討会 15 案に絞り込み (H17.6.7) (構成：唐津市学校教育課長、地元小中学校校長・PTA 会長、唐津東高同窓 会長・振興会長、唐津東高校長、教育企画室長) 職員、生徒へのアンケート調査を実施(H17.6.13) 第 2 回校名候補検討会 5 案に絞り込み (H17.6.21) 有識者への意見聴取
県教委における検討	県立高校再編整備推進本部会議 (H17.7.29) 校名候補についての協議 (5 案の検討) 8 月定例教育委員会勉強会(H17.8.10) 校名候補案 3 案を選定 唐津東中学校で了解(H17.8.10) 9 月定例教育委員会(H17.9.5)
条例改正案提出	9 月県議会

(4) 武雄高校・武雄青陵中学校 <平成 19 年：(旧)武雄高校、武雄青陵高校>

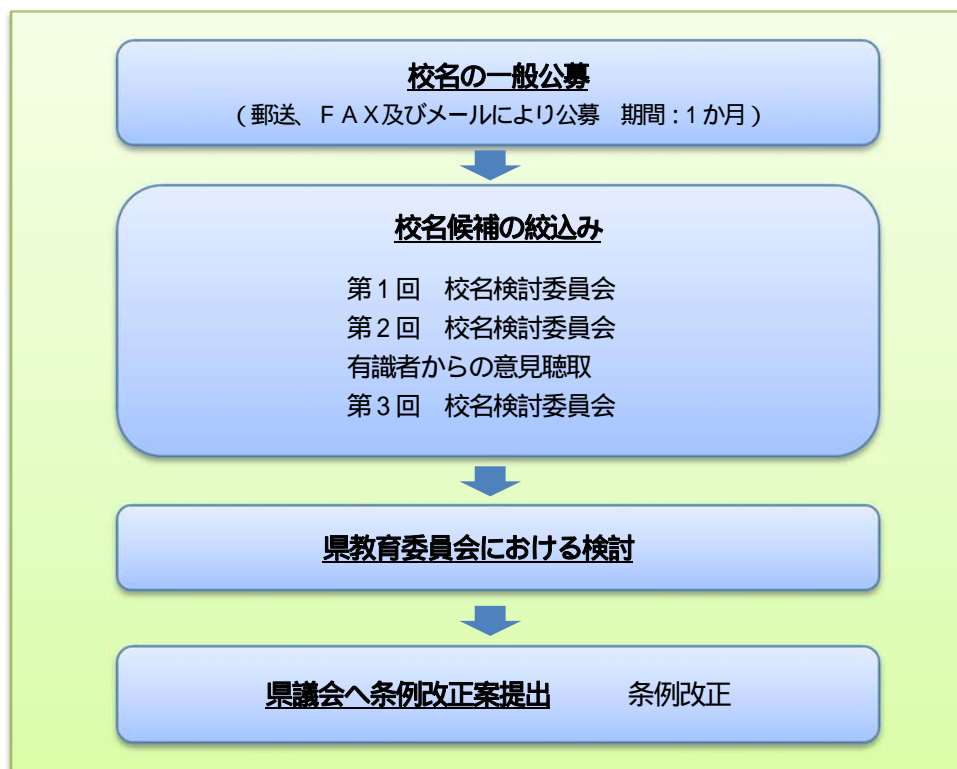
校名候補案	武雄高校職員により作成 (H18.2~3 25 案の作成)
校名候補の絞り込み	第 1 回校名候補検討会 25 案の説明・意見聴取(H18.3.28) (構成：武雄市教育長、地元小中学校校長・PTA 会長、武雄高及び武雄青陵 高同窓会長・振興会長、武雄高及び武雄青陵高校長、教育企画室長) 有識者への意見聴取 第 2 回校名候補検討会 14 案に絞り込み (H18.4.14) 武雄市長訪問 意見聴取(H18.5.11,5.19)
県教委における検討	8 月定例教育委員会勉強会(H18.5.24) 武雄高校、武雄青陵中学校で了解 武雄高校、武雄青陵中学校で了解(H18.6.2) 6 月定例教育委員会(H18.6.12)
条例改正案提出	6 月県議会

(5) うれしの特別支援学校 <平成 19 年：新設>

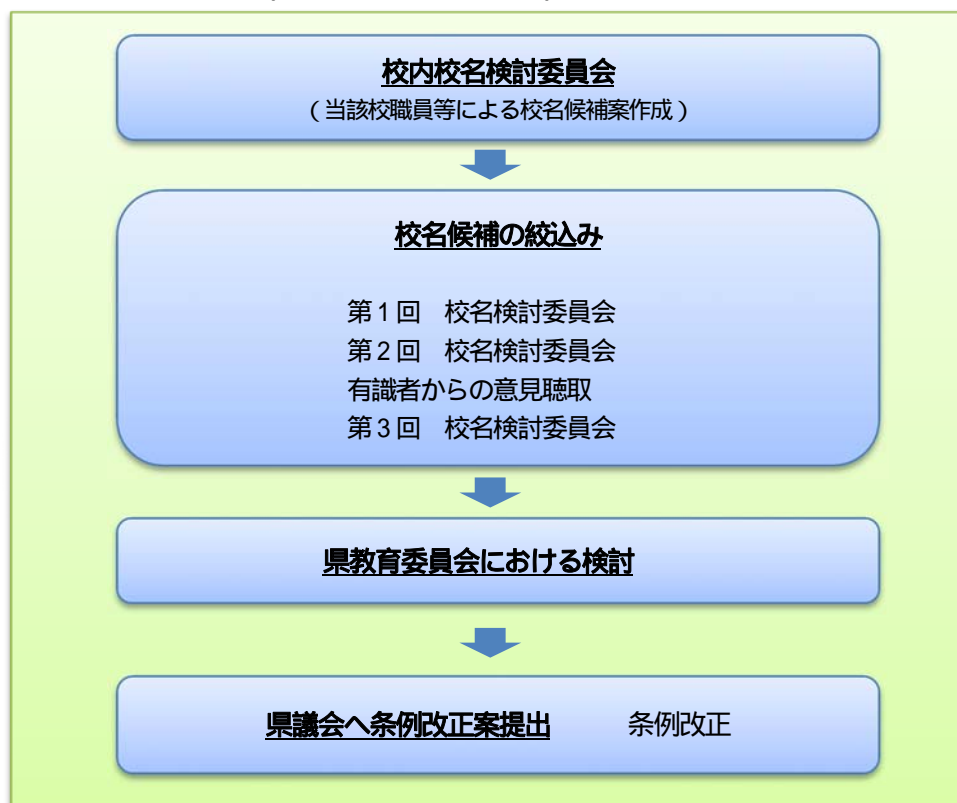
校名候補案	県教委担当課において素案作成 (H18.5~6 32 案)
校名候補の絞り込み	第 1 回校名検討委員会 12 件の候補案提案 (H18.7.5) (構成：嬉野市教育長、地元企業代表、地元小中学校校長・他養護学校の保護 者代表及び校長、教育企画室長) 有識者への意見聴取 4 件の候補案提案(H18.7.18,19) 第 2 回校名検討委員会 意見交換 (H18.8.9) 第 3 回校名検討委員会 11 案に絞り込み(H18.8.17)
県教委における検討	教育委員への意見聴取(H18.8.22) うれしの特別支援学校で了解(H18.8.23) 9 月定例教育委員会(H18.9.6)
条例改正案提出	9 月県議会

3 検討方法（パターン）

【パターンA】 校名候補案の一般公募の場合



【パターンB】 当該校の職員（校内校名検討委員会等）による原案作成の場合



<校名候補案の公募又は作成事例>

(1) 公募

唐津青翔高校の場合

平成 17 年 4 月開校の上場地区新高等学校の校名を広く県民から募集することにより、学校及びその教育内容等を県民や地域の皆様に周知するとともに、新しく生まれる高校が、県民や地域の人々から愛され親しまれることを目的として、校名の公募を実施した。

- ア 実施主体： 上場地区新高校整備推進委員会
- イ 募集期間： 平成 16 年 4 月 5 日（月）～平成 16 年 4 月 23 日（金）
- ウ 募集方法： 新高校の校名案を募集（郵送、FAX 及びメールによる）
- エ 応募総数： 509 通

参考 平成 30 年度開校予定の高校（杵島地区、鹿島地区、嬉野地区の各新高校）の場合

- ア 実施主体： 各地区新高校設置準備委員会
- イ 募集期間： 平成 28 年 7 月 7 日（木）～平成 28 年 8 月 15 日（月）
- ウ 募集方法： 新高校の校名案を募集（郵送、FAX 及びメールによる）
- エ 応募総数： 杵島地区 873 通 鹿島地区 410 通 嬉野地区 709 通

(2) 当該校の職員（校内校名検討委員会等）による作成

武雄高校・武雄青陵中学校の場合

武雄高校及び武雄青陵高校、両校の教職員より、校内校名検討委員会を設置し、25 件の校名候補案（素案）を作成

唐津東中学校の場合

唐津東高校の教職員により、校内校名検討委員会（校長など 10 名）を設置し、50 件の校名候補案（素案）を作成

香楠中学校の場合

校内校名検討委員会において、18 件の校名候補案（素案）を作成

うれしの特別支援学校の場合

県教委担当課（教育企画室、学校教育課特別支援教育担当）において、32 件の校名候補案（素案）を作成

4 検討組織

校名検討委員会委員構成（イメージ）

平成 30 年度新高校開校予定の 3 地区（杵島地区、鹿島地区、嬉野地区）の場合

No	委員構成（案）
1	関係校校長（2 人）
2	関係市町教育長
3	市町関係者
4	関係校同窓会代表（2 人）
5	関係校 PTA 代表（2 人）
6	地元中学校校長
7	県教育委員会代表

県教委の各課室からの委員を除けば、現在行っている新高校設置準備委員会と校名検討委員会の委員構成はほぼ同じであるため、現在の設置準備委員会をベースに、県教委からは代表 2 名のみでの参加（県立高校再編整備推進室長、同教育企画監）とし、校名検討委員会は新高校設置準備委員会と併せて実施することが考えられる。

【参考】新高校設置準備委員会委員構成

No	委員構成
1	関係校校長（2 人）
2	関係校教頭（2 人）
3	関係市町教育長（1～4 人）
4	市町関係者（1～2 人）
5	関係校同窓会代表（2 人）
6	関係校 PTA 代表（2 人）
7	地元中学校校長（1～2 人）
8	県教委各課室（8 人）

校名検討委員会の構成としては、再編対象校の校長及び職員、同窓会関係や PTA 関係、また、該当市町の首長や教育長、さらには地元中学校の校長等が考えられ、これに教育庁の関係課を加え、様々な視点から協議を重ねるとともに、有識者及び地元関係者への意見聴取を行うことによって、候補を絞り込んでいく必要がある。

最終的には、校名検討委員会のそれまでの検討結果を踏まえ、教育委員会で校名を決定し、県議会において条例を改正する。

参考資料

佐賀県立高等学校 校名一覧

番号	学校名	校名由来	番号	学校名	校名由来
1	鳥栖	所在地名	19	唐津南	所在地名＋方角
2	三養基	所在地名	20	伊万里農林	所在地名＋専門校種名
3	神埼	所在地名	21	佐賀農業	所在地名＋専門校種名
4	佐賀東	所在地名＋方角	22	鳥栖工業	所在地名＋専門校種名
5	佐賀西	所在地名＋方角	23	佐賀工業	所在地名＋専門校種名
6	佐賀北	所在地名＋方角	24	唐津工業	所在地名＋専門校種名
7	致遠館	※1	25	有田工業	所在地名＋専門校種名
8	小城	所在地名	26	塩田工業	所在地名＋専門校種名
9	唐津東	所在地名＋方角	27	鳥栖商業	所在地名＋専門校種名
10	唐津西	所在地名＋方角	28	佐賀商業	所在地名＋専門校種名
11	厳木	所在地名	29	唐津商業	所在地名＋専門校種名
12	伊万里	所在地名	30	伊万里商業	所在地名＋専門校種名
13	武雄	所在地名	31	杵島商業	所在地名＋専門校種名
14	白石	所在地名	32	鹿島実業	所在地名＋専門校種名
15	鹿島	所在地名	33	神埼清明	※3
16	太良	所在地名	34	多久	※4
17	牛津	所在地名	35	唐津青翔	※5
18	高志館	※2	36	嬉野	※6

※ 過去の県立高校の校名選定の理由等

番号	学校名	旧校名	校名変更の理由	校名選定の理由
※1	致遠館	—	新設	①佐賀藩校「致遠館」にちなむ。(校名一般公募) ②「志を遠大にする」、「遠方の人々を導く」、「遠くへ行く」等を意味する。
※2	高志館	佐賀農芸	学科改編(農業科と国際交流科の併置)	①校訓「高志潔心」よりとる。 ②高い志を持って学び、活躍してほしいという期待を込める。 ③世界に通用する人材を育成する。
※3	神埼清明	神埼農業	学科改編(総合学科の設置)	①総合学科で学ぶ生徒の清新さをイメージすることができ、新たな校風を醸成する。 ②校歌の一節「清明すでに仰ぐ」より引用。 ③「清明節」の語感から若さと希望を表している。
※4	多久	多久工業	学科改編(総合学科の設置)	①伝統を踏まえ、新たな校風の樹立をはかる。 ②歴史と文化を誇る学究の里「多久」の地名を残す。 ③全国に「多久」の校名は無く、地域に存在する唯一の高校。
※5	唐津青翔	東松浦 唐津北	高校再編(東松浦と唐津北の統合)	①「唐津」を付けることで、唐津地区の学校であることを明確にする。 ②「青」は玄界灘の海を表し、「翔」は未来に羽ばたく若者のイメージを表す。
※6	嬉野	嬉野商業	学科改編(総合学科の設置)	①開校当時の校名をそのまま生かし、原点回帰して新鮮なイメージを与える。 ②地域存在する唯一の学校であること。 ③全国に「嬉野」の校名が無い。

【 平成29年度以降のスケジュール(案) 】

回	時期	主な検討項目
平成29年度 第9回	H29年5月	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度及び28年度報告、平成29年度以降のスケジュール ・新高校の校名(検討方法) ・新校章・新校歌・新制服検討(検討方法) ・新学科の教育内容 ・<校舎制の場合>校舎制
第10回	H29年7月	<ul style="list-style-type: none"> ・教育内容に係る検討報告(教育課程、部活動、学校行事、校務分掌、各種委員会等) ・新高校の校名(進捗状況報告) ・新学科の教育内容 ・<校舎制の場合>校舎制
第11回	H29年10月	<ul style="list-style-type: none"> ・教育内容に係る検討報告(教育課程、部活動、学校行事、校務分掌、各種委員会等) ・新高校の校名(校名案) ・新学科の教育内容 ・新校章・新校歌・新制服検討(進捗状況報告)
第12回	H30年1月	<ul style="list-style-type: none"> ・新高校再編整備実施計画(原案)検討
	H30年2月	<ul style="list-style-type: none"> ・2月議会(条例改正案)
	H30年3月	<ul style="list-style-type: none"> ・新高校再編計画
平成30年度	H30年4月～	<ul style="list-style-type: none"> ・広報活動 等 <p>進捗状況報告のための設置準備委員会を開校までに1～2回実施</p>
平成31年度	H31年4月	開校

新高校設置準備委員会設置要領

平成14年10月21日
佐賀県教育委員会教育長決定
一部改正 平成17年4月 1日
一部改正 平成18年7月12日
一部改正 平成21年4月 1日
一部改正 平成27年4月 1日

(設置)

- 第1条 佐賀県立高等学校再編整備実施計画に定める再編等によって設置される高校(以下「新高校」という。)の具体的な在り方等を検討するために、県立高等学校再編整備推進本部設置要綱第7条の規定に基づき、新高校設置準備委員会(以下「委員会」という。)を設置する。
- 2 委員会は、新高校ごとに別表のとおり設置する。

(所掌事項)

- 第2条 委員会は、次の各号に掲げる具体的な検討を行う。
- 一 新高校の教育内容及び管理運営等に関する事
 - 二 新高校の施設・設備に関する事
 - 三 新高校への円滑な移行に関する事
 - 四 前号に掲げるもののほか、検討を要する事

(組織)

- 第3条 委員会の委員は、再編等整備の対象となる学校(以下「再編等対象校」という。)の校長、教職員、県教育委員会事務局関係者及び地域関係者のうちから教育長が委嘱する。
- 2 委員会には委員長及び副委員長を置き、再編等対象校関係委員の中から教育長が指名する。
 - 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、副委員長がその職務を代理する。
 - 4 委員長は、必要と認めるときは、委員会に作業部会を設置することができる。

(会議)

- 第4条 委員会は、委員長が招集し、主宰する。
- 2 委員長は、必要と認めるときは、委員以外の者に委員会への出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。

(事務局)

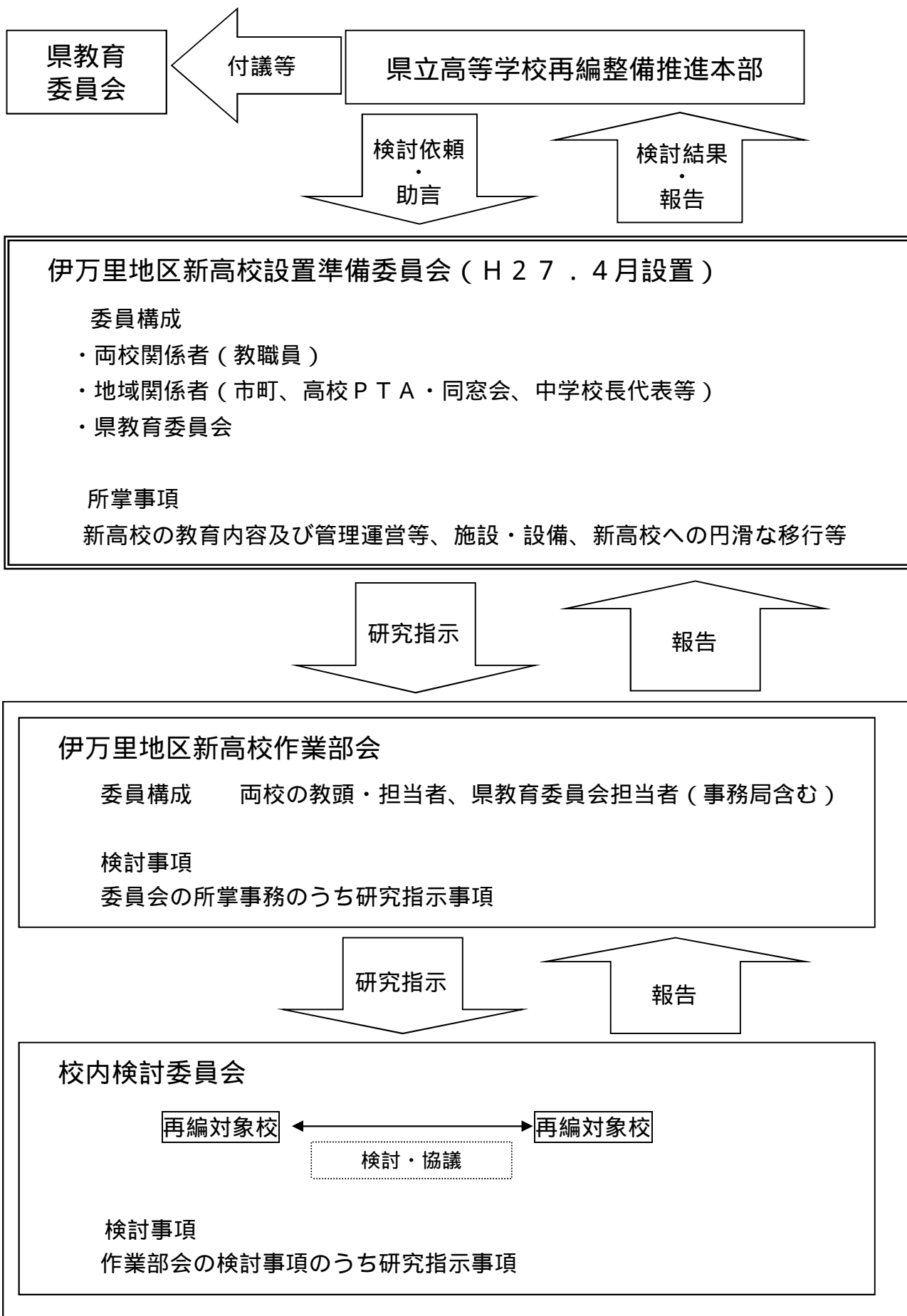
- 第5条 委員会の事務局は、委員長が所属する学校及び県立高校再編整備推進室に置く。

(補足)

- 第6条 この要領に定めるもののほか、委員会及び作業部会の運営に必要な事項は委員長が委員会に諮って定める。

別表（第1条関係）

委員会名	再編等対象校
伊万里地区新高校 設置準備委員会	伊万里農林高等学校、伊万里商業高等学校
杵島地区新高校 設置準備委員会	白石高等学校、杵島商業高等学校
新巖木高校 設置準備委員会	巖木高等学校
鹿島地区新高校 設置準備委員会	鹿島高等学校、鹿島実業高等学校
嬉野地区新高校 設置準備委員会	塩田工業高等学校、嬉野高等学校



資料7 伊万里地区新高校設置準備委員会委員構成

No.	所属・職名	氏名	備考
1	伊万里商業高等学校 校長	熊谷 正実	委員長・学校関係者
2	伊万里農林高等学校 校長	青木 久生	副委員長・学校関係者
3	伊万里商業高等学校 教頭	大川内弘紀	学校関係者
4	伊万里農林高等学校 教頭	松本 英裕	
5	伊万里市教育長	森 哲也	伊万里市関係者
6	伊万里市政策経営部長	佐藤 弘康	
7	伊万里商業高等学校 同窓会代表	森 日出生	地元関係者
8	伊万里農林高等学校 同窓会代表	岩永 康則	
9	伊万里商業高等学校 P T A代表	中尾 啓司	
10	伊万里農林高等学校 P T A代表	金子 直幸	
11	伊万里市立東陵中学校長	坂本 浩幸	中学校関係者
12	教育総務課長	熊崎 康春	県教委関係者
13	教育振興課長	五反田 進	
14	教職員課長	福地 昌平	
15	学校教育課長	松尾 敏実	
16	教育情報化支援室長	碓 浩一	
17	保健体育課長	吉松 幸宏	
18	県立高校再編整備推進室 室長	原 和弘	
19	県立高校再編整備推進室 教育企画監	岩村 彰	
事務局	伊万里商業高等学校教諭	坂口 哲也	
	伊万里農林高等学校教諭	木村 紀元	
	県立高校再編整備推進室 企画主幹	山下 秀司	
	県立高校再編整備推進室 企画主査	杉本 耕一郎	